

平成22年度 児童・生徒 平和に関する図画・作文コンクール

審査講評 図画の部

本コンクールは今回で3回目となるが、回を重ねるに連れ応募点数が増えてきた。ちなみに、一昨年は132点、去年は555点、今年は831点である。そこで、今回から入賞、入選の点数を考慮し増やすことになった。村長賞が小中校それぞれに1点、教育長賞も小中校それぞれに1点、優秀賞や入選の点数も増やすことになった。

審査においては、これまで同様、次のことを基準に進めていった。まず、本コンクールの主旨である“戦争と平和について考えるとともに平和を尊ぶ心を育む機会とする”と、内容について“沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く”などに合致した作品であるかということなどである。そして、それを表現するための形や色、画面全体の構成が発達段階に応じた表現であるか、などである。

小学校高学年と中学校の作品には`戦争`を意識して描いた作品が多かったが、小学校低・中学年では身近な生活の中での平和な暮らし、動植物との共生などを表現したのが多かった。また、それぞれの校種、学年とも発達段階に応じた色や形、画面構成など表現力のよさが感じられ、読谷の子どもたちの力強さと感性の豊かさも知ることが出来た。

紙幅の都合上、村長賞と教育長賞の4点について講評をする。

中学校の部 村長賞：大庭亮子（古堅中学校3年）

人物は天を仰ぐような鳥瞰図的表現でしっかりと描かれ、祈りや願いが感じられる。金網と黄色いリボンを描いたことにより米軍基地が連想できる。右上から垂れ下がるような赤い色はこぶしを上げ、口を大きく開け、何かを訴えている人物になっている。作者はきっと戦争につながる基地をどうにかして欲しいと訴えているのだろう。形、色、画面構成共に素晴らしい。

小学校の部 村長賞：宮城玲奈（喜名小学校6年）

銃を向けられた白旗の少女、目を閉じ何かを語りかけているような大人、それを真剣な眼差しで涙を流しながら聞いている子ども、一見して去る第2次大戦沖縄戦を思い起こさせるような絵である。画面やや中央に地球が描かれていて、黄色いリボンが結ばれている。2度とあの悲惨な戦争はしてはならない、世界は平和であって欲しい、という願いが込められた絵である。

中学校の部 教育長賞：村 夏子（古堅中学校3年）

爆弾の投下、破裂した赤い炎、その横には銃と白旗、画面中央にはいたいけな少女が鉄かぶとをかぶった頭蓋骨を抱きしめ涙を流している。その周辺にはゲットウが描かれさらにガマが描かれている。下の方には最近の沖縄の状況を伝える新聞の見出しを切り取りカラーシュしてある。戦争の悲惨さとこれからの私たちの生き方に何かを訴えているインパクトの強い作品である。

小学校の部 教育長賞：松田智有（読谷小5年）

画面中央に涙を流しながらウートーッしているオジーが大きく描かれ、その周囲には戦闘機、爆弾、銃を持った軍人そして銃 剣等が描かれている。戦争のもたらすマイナスの部分を一瞬懸命伝えようという思いからか少々説明的で平面的な表現になってしまったが、直接的に伝わってくるものはある。もう少し立体的な表現方法を工夫すると絵としての深みも出たと思う。

多くの出品者のみなさんありがとうございました。

ご多用の中、本コンクールにご尽力なされた先生方、誠にありがとうございました。

審査員：波平栄宏、与久田健一 平成22年（2010）6月吉日